

Business

● ビジネスリスクマネジメント

April 2010

4

Risk Management

特集

「知的財産」の リスクマネジメント

【好評連載】

業界別リスクマネジメント講座

住宅業界②

ビジネスに活かす物語力

マーケティングにおける物語発想

ミドルマネジャーのための教養講座

渋谷栄一の「論語と算盤」

医療・介護リスクQ&A

手術におけるリスクマネジメント

小山龍介のブックガイド

Broaden Your Horizon!

意匠権

商標権

特許権

著作権



Q&A

手術における リスクマネジメント

手術室担当の看護師をしています。最近、重大なインシデント報告があり、手術におけるリスクマネジメントマニュアルを見直す必要があるという話し合いが持たれました。今までは、脳外科、心臓血管外科、消化器外科、麻酔科などの各診療科、看護部、手術室など、それぞれの部門のマニュアルで動いており、手術をする上で連動していない点がありました。どのようなポイントに注意してマニュアルを作成すればよいでしょうか。

A 手術におけるリスクマネジメントが困難なのは、次のような原因によります。

①手術自体がリスクの高い医療行為であること

②多数の専門職が関わること

③多数の薬剤や機器を使用すること
手術におけるリスクマネジメントは、部門マネジメントではなく、プロジェクトマネジメントの発想で考える必要があります。各部門ごとにリスクマネジメントのマニュアルを作っても、それぞれのやり方が異なっていると、確認すべきことが抜け落ちたり、チームワークが乱れたりして、リスクをさらに高めてしまう恐れがあるからです。

具体的には、リスクマネジメントの方法を標準化したうえで、各部門にブレークダウンしていきます。標準化するにあたって必要な項目は以下のとおりです。

①周術期管理

②インフォームドコンセント(術前、術後)

③患者確認(術前アセスメントを含む)

④手術部位、患者の体位確認

⑤関わる専門職の役割

⑥使用する薬剤、機器、機材、ガーゼ等の管理

⑦薬剤、機器、機材、ガーゼ等の使用チェック

⑧輸血の確認

⑨術前のカンファレンスおよびブリーフィング

⑩術中の患者観察(モニター管理を含む)

⑪災害時の対応

⑫術後の経過観察

このなかで特に重要なのが、②、

③、⑦、⑨、⑩です。

②の「インフォームドコンセント」は、ただ説明をして同意を得ればよいというものではありません。患者と医療従事者とのあいだには医療知識のギャップがあり、また、患者には、医師の話をしっかり聞いて質問を投げかけるだけの気持ちの余裕のないのが普通です。そのなかで手術というリスクの高い医療行為を受けるよう促すわけですから、「こんなに危険性がある手術とは思わなかった」と患者があとで言うことのないように丁寧に説明しなければなりません。

③の「患者確認」は、複数のスタッフで術前の回診を行い、患者と十分にコミュニケーションをとりつつ、全身確

認や手術前に必要な事項を確認します。

⑦の「薬剤、機器、機材、ガーゼ等の使用チェック」は、異物残存や薬剤誤投与を防ぐために重要です。数量を数えるだけでなく、記録したうえで複数のスタッフがダブルチェックするようにします。

⑨の「術前のカンファレンスやブリーフィング」は、手術内容や患者固有のリスク要因などを共有し、手術チームの役割確認とチームワークの形成を行います。

⑩の「術中の患者観察」は、手術中の容体変化の確認はもちろん、術中に起こる不測の事態を早期発見するためのモニタリングという点で重要です。

こういった点に注意して標準のリスクマネジメントマニュアルを作り、それを各部門のマニュアルに落としこんでいきます。

PROFILE

株式会社フォーサイトコンサルティング 代表取締役社長

浅野 睦 Makoto Asano

丸井・ブルデンシャル生命を経て、コンサルタントとして独立。業務改革、営業戦略、リスクマネジメントを中心に、一般企業から医療法人など、幅広くコンサルティング活動を展開。リスクマネジメント協会理事。近著に『変革期の介護ビジネス』(学陽書房)

